



2020年度 年主題〈こころが満たされる〉

0・1・2歳児 2月主題 「いっしょにね」
 月のねがい
 ◎保育者の祈りに合わせて、神さまに祈る。(0)
 ◎散歩して冬の外気にふれて、元気に過ごす。(0)
 ◎保育者や友だちと一緒にいることを喜ぶ。(0)
 ◎自分から神さまに祈ろうとする。(1,2)
 ◎全身を動かしたり、手や指を十分に使って遊ぶ(1,2)
 ◎自分でできるが増えて自信を持って生活する。(1,2)

3・4・5歳児 2月主題 「つながる」
 月のねがい
 ◎自分やまわりのひとたちのために祈る。(3)
 ◎体験したことや経験したことが生かされ、遊びや生活をより深く楽しむ。(3)
 ◎友だちの喜びや悲しを感じる (3)
 ◎友だちやまわりの人のために自分のことばで祈ろうとする。(4,5)
 ◎仲間と一緒にアイデアを出し合い、遊びや生活をつくりあげることが喜びとなる (4,5)
 ◎友だちの喜びや悲しみに寄りそう。(4,5)



ITC化に向かって!

先週は、キャリアアップ研修、熊本地区教師研修にそれぞれ参加させていただきました。保護者の皆様には、お仕事もあったかと思いますが、お休みのご協力をいただき、まことにありがとうございました。お陰様でしっかりと学びの時を持つことができました。

さて、私は、熊本地区教師研修の方に参加をさせていただきました。私にとって初めてのリモートでの研修でした。昨年度からのテーマは「仕事の効率化と組織の活性化」です。効率化の実践の一つとして、今年度は保育日誌や月間指導計画などの記録や週案をデジタル入力に変えて実施しています。本園ではまずはこの程度ですが、保護者に配布する文書等をメール等で配信し、提出していただく書類もほとんどスマホでのやりとりしている園もありました。まだまだ取り組むべきこともありそうでとても勉強になりました。

ただ効率化が目的ではなく、効率の良い仕事をする事で、他の仕事をする時間が確保でき、心に余裕が生まれます。そこで、周囲の状況も見えてくるので、保育のアイデアも浮かび、仕事への意欲も増すわけです。昨今、「働き方改革」も求められ戸惑うことも多いですが、業務を見直すことによって、新たな視点で物事を考えるようになったことは良かったと思います。今回も多くの刺激をいただいた実り多い研修となりました。

2月27日は、2度目のキャリアアップ研修会が行われます。この日も保護者の皆さんからのご協力をいただくこととなりますが、職員も保育の質を上げるために、しっかりと学んでまいりたいと思います。 森山



今月の聖句

「主はあなたをまもるかた。」

詩篇 121:5

新型コロナウイルスの日本流入から1年が経ちました。未だに収束するどころか、感染者が増え続けています。神が創造の神であるならば、どうして人類にとって害をもたらすウイルスのようなものを許されるのか、これは大きな疑問であり、謎でしょう。

けれども、その全てが悪玉であるわけではありません。人類はこれまで3万種類のウイルスを発見していますが、そのうち哺乳類と鳥類に感染するウイルスは650種、さらに1つの種はいくつものタイプに分けられます。人に風邪を引き起こすウイルスを1種とみなすと、それだけでも110ものタイプがあるそうです。平均的に、人は一生の間、200回ぐらいウイルスに感染しているとのことです。人体に有害なウイルスは、実は全体の1%であって、その他ほとんどは生命維持のために必要なものなのです。たとえば、母親がお腹に子を宿す時、本来であれば異質な父親の遺伝形質を拒絶するのが筋であるはずなのに、そうならずに受胎出来るのは、ヒト内在性レトロウイルスにあるシンシチンというタンパク質の働きによるということが科学的に分かっているそうです。「ウイルス=悪玉」とイメージしがちな中、これは驚きです。その中の1%しか悪玉ではない。その悪玉もなくなればいいのと願う限りですが、その悪玉の存在が長い目で見たら、私たち人間の生き方やあり方、存在意義を問い直す役割を担っているようにも思います。神さまは、そのようにして、短期、中期、長期的に、人類を、私たち一人ひとりを守ってくださっている。このコロナ禍にあっても、そう思わざるを得ないのです。

協力牧師 池田基宣



保育参観

2月の行事予定

1日(月)	おゆうぎ会振替休日
8日(月)	2月誕生会
10日(水)	冬の一日遠足 ※弁当日
15日(月)	持久走試走(予備日16日)
20日(土)	持久走大会(予備日22日)
25日(木)	保育参観(こすもす・たんぽぽ)
26日(金)	保育参観(すみれ・あじさい)
27日(土)	キャリアアップ研修(職員)

3月の行事予定

2日(火)	3月誕生会
日()	絵本の会ラスト公演
4日(木)	お別れ会・バイキング
13日(土)	卒園式
19日(金)	修了式(1号午前保育)
30・31日	新学期準備のため休園

お年玉募金のご報告

先般実施しましたお年玉募金にて、45,681円集まりました。貧困対策等に役立てられるよう日本国際飢餓対策機構に送金させていただきます。皆様のご協力に心から感謝致します。

持久走大会



豆まき



少し寒さも薄らいだかと思えば、暦ではもうすぐ立春。おゆうぎ会のお稽古で「全集中」を強いられる子どもたちです。このリズムを書いている時点では、市長・市議選挙の結果は不明です。どなたであろうとも、子どもたちの未来のために本場に必要であることを、本気で取り組んでいただきたいと願っております。

日本でも新型コロナウイルスのワクチン接種の話がでてきました。収束の道はまだまだ険しく、ワクチンによって一人でも多くの方の命が守られるよう祈らずにはおられません。我々人類は自然災害や疫病など、多くの犠牲を伴う大きな困難に何度も遭遇し、それを乗り越えてきました。これらは殆ど予測が難しい事象なので、遭遇した際にダメージを最小限に抑えるための冷静な対処が求められます。悲観的な思いを持ちつつも、前向きに生きていくには何が必要でしょうか。

命に関わるような出来事に遭遇することもありますが、こんな時には、人間性もネガティブな気持ちに陥ることは当然です。曹洞宗の名僧である沢木興道氏がこんな言葉を遺しています。

『全部はたいて、選り食いはせぬ。』

これは偏食についての戒めではなく、人生の生き方についての覚悟の言葉と捉えられます。「人生の食卓には、いろんなご馳走が出てくる。好物もあれば、嫌いな物も出てくる。ご馳走ばかりとはかぎらない。粗末な食事が供されることだってある。私たちはこの人生において客である。客だと考えたほうがいい。客だから、自分の思い通りには生きられないからである。客だとすれば、私たちが出された食事を、あれこれ選り好みしないで全部いただくかばならない。注文をつけることは、客の分際をわきまえていないことになる。そう、逆境になれば、逆境の人生をしっかりと生きればいいのである。」とのこと。ただし簡単なことではないですね。人間には本来、「レジリエンス」と呼ばれる困難やストレスに対応する「しなやかな心」や「立ち直る力」が備わっているそうです。しかし、それがうまく機能せず、心が回復しづらい人も、また存在するわけです。レジリエンスを確かなものにするためにも、発達の過程にある幼児期から意識して、小さな困難や葛藤を伴う多くの体験ができる環境づくりが大人の大切な役目だと信じます。

暦の上ではもう春。次第に日差しや肌に触れる風が、心地よくなっていく季節です。おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなと一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えていくことにいつも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くために、おゆうぎ会があると言っても過言ではないでしょう。残り少ない三学期を思う存分楽しんでいきます。

選り食いの生き方

親子で楽しむ音楽

幼児は生後11週目くらいから人間の声、それ以外の音を聞き分けられるようになります。親がたくさん話しかけたり、音楽をたくさん聴かせたりすることで、徐々に人の声の区別がつかようになるのです。9ヶ月頃から幼児は誰に向けるわけでもなく言葉を発するようになります。この時期にたくさん音楽を聴かせることで、意味の無い言葉を発して言語能力の基盤を作ったり、リズム感を養ったりできます。1歳頃になると、幼児は自作の歌を作ることがあります。子どもが歌うのは楽しいとき嬉しきときです。最初は音階の繋がらない曖昧なもので、年齢を重ねるにつれて音階のしっかりした歌になっていきます

音楽が幼児期の子どもに与える影響

幼児期の音楽をたくさん聴いていると、音楽を聴く力が高まり、一つの歌から人間の声、楽器の音、和音などを聞き取れるようになります。運動を行うことには、知覚と動作を連結させる必要がありますが、音楽を聴きながらダンスをしたり、歌ったり手を叩いたりといった簡単な動作と一緒に取り入れると、知覚と動作が連結しやすくなるのです。合奏や合唱を経験することで協調性が生まれ、他者とのコミュニケーションを円滑に進めやすくなるのです。達成感を味わうことで自己肯定感が強まり、人と対等に接することができるようになります。

月齢別 子どもの発達と音楽

音を聞き分ける 人間の声 音楽	音楽に反応して 身体を動かし 声を出す
誕生	11週目
6ヶ月	9ヶ月
1歳	
笑顔で反応も	うれしいとき 楽しいとき
好きな音楽に聴き入る	自作の歌で 感情を表現する

音楽が幼児期の子どもに与える影響は大きい

言語能力の向上 人の声 音を聞き分ける能力 あいうえお かきくけこ ABC EFG 微妙な発音の差	運動能力の向上 聴いて 動く 知覚 動作 パフォー マンスが 得意に	人間性を高める 相手に合わせて歌う 歌詞の 意味を 考える 協調性や 共感性
---	---	--

園長

園長